

全国学力・ 学習状況調査における 調査結果



全国学力・学習状況調査の実施状況について

● 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 調査の対象

- 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒

● 調査内容

- 教科に関する調査（小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学）
 - ・ 「知識」と「活用」を一体的に問う問題
 - ・ 国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・ 児童生徒に対する調査
 - ・ 学校に対する調査

伊方町における調査結果の公表について

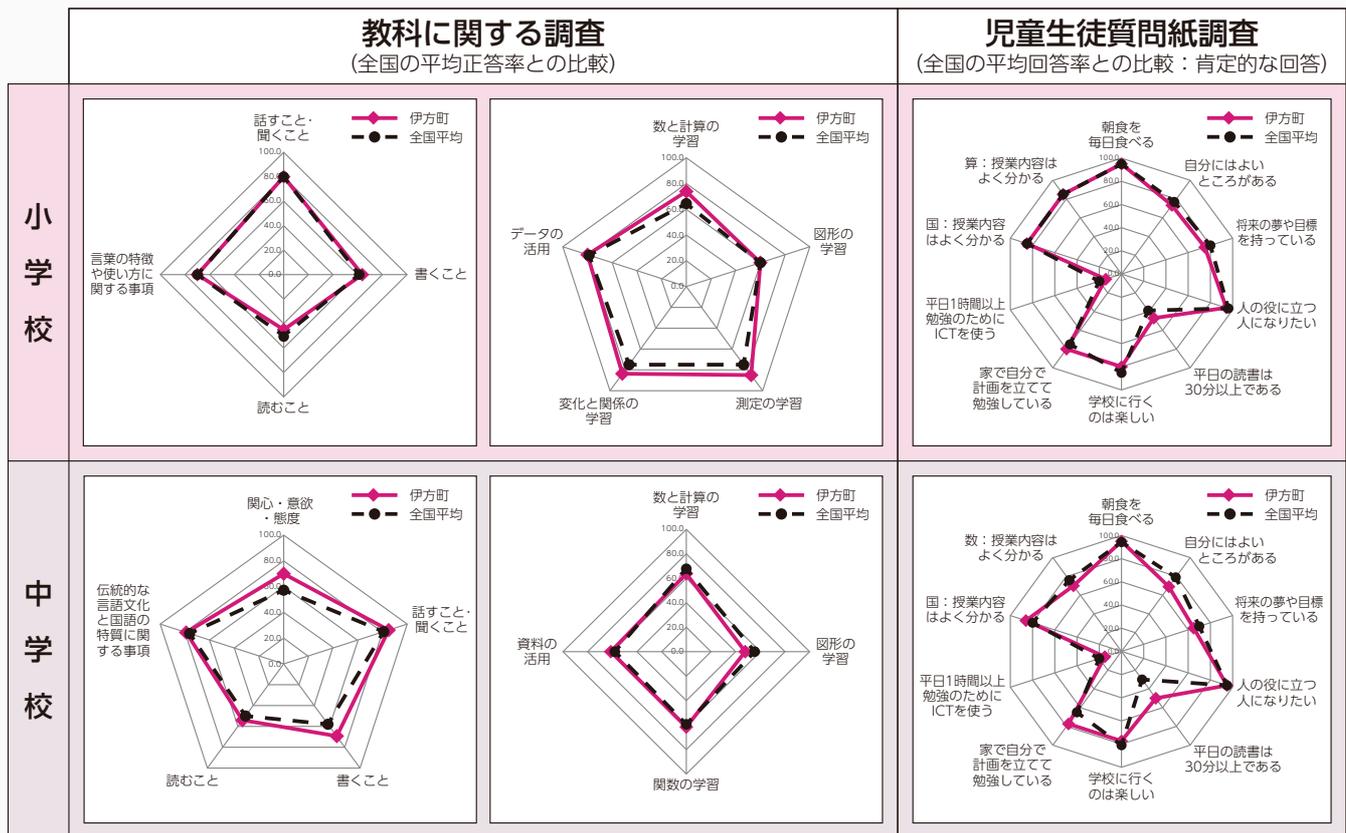
● 公表の趣旨

- 学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域のみんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。

● 留意事項

- ア 「9年間の学びを見通した教育の創造」の町統一テーマの下、小学校・中学校の連携による取組を重視する。
- イ 教科に関する調査や児童生徒質問紙調査は、レーダーチャート等で表示し、実態把握や分析、改善策を検討していく。
- ウ 点数等の数値表示、一覧表の作成、順位づけはしない。

令和3年度 全国学力・学習状況調査における調査結果



1. 結果の分析

〈小学校〉

- 国語は、多くの項目で全国平均を上回っている。「読むこと」については、下回ったままであり、課題となっている。算数は、全ての項目が、全国平均を上回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、「平日の読書」の項目が、全国平均を上回っており、前回に比べて改善の傾向にある。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の項目が、全国平均を下回っている。

〈中学校〉

- 国語は全ての項目が全国平均を上回っている。数学は「資料の活用」「関数」の項目が全国平均を上回っているが、「図形」の項目が全国平均を下回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、「家で計画を立てて勉強」「平日の読書」の項目は全国平均を大きく上回っている。一方、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の項目は全国平均を下回っている。

2. 改善方針

〈小学校〉

- 国語では、「読み取る力」と「まとめて書く力」を伸ばす指導を継続する。算数では、個別指導を重視し、基礎・基本の定着を図る。また、図形の理解を促す指導の工夫に努める。

〈中学校〉

- 国語では、文章を読み取る力、言葉や歴史的仮名遣いについての知識を高めていく。数学では、ICT機器などを活用し、様々な練習問題(難易度別や形式別)を重ね、基礎・基本の定着を図る。

〈小中共通及び家庭・地域との連携〉

- ICT機器を活用した学習の機会を増やしていく。
- 学校や家庭において、自己肯定感が高まるような言葉掛けを心掛ける。

3. 具体的な取組

〈小学校〉

- 国語では、読解力を要する問題や条件に合わせて書く問題に取り組む機会を多くし、質問の読み取り方や答えの書き方を具体的に指導していく。
- 算数では、補充学習や個別指導の時間確保に努め、ドリル学習等で基礎・基本の定着を図るとともに、これまでと同様に考え方を図や式を使って説明する学習を行う。

〈中学校〉

- 国語では、文章中の描写や表現から大事なポイントを見付け、内容を読み取る練習をする。
- 数学では、速く正確に計算する力や図形に関する知識を身に付けるために、練習問題を繰り返す行う。

〈小中共通〉

- 一人1台タブレットを活用し、学習意欲や視覚による学習の理解度を高める授業を行う。
- 集会などの交流の場を多く設け、成就感を味わわせる。成功体験を増やすような活動を取り入れ、児童・生徒が、互いのよさや頑張りを認め合う場面を増やす。

〈家庭・地域の皆様へ〉

- ☆感謝されたり、褒められたりすると、自己肯定感が高まるものです。お手伝いをする機会を増やして、「ありがとう」「頑張ったね」「助かったよ。」とお子さんに声掛けをしてみてください。
- ☆集団の中の大切な一員であることが自覚できるように、手伝いなど家庭での役割を決めたり、地域行事に参加させたりしましょう。